（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス　ぷらっとほうむ０２

公表日　令和７年　１月３１日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		子ども達の状況に応じて利用できる部屋の確保等、目的別の部屋を設置している	スペースが十分に活用されているか等の利用状況を適切に把握し、必要な調整が行われているかを適宜確認していきたい
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		支援の質を向上することを目的に専門職を配置している	利用状況等、必要に応じて配置の見直しを行っていきたい
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		子どもが状況を理解しやすい構造化された空間作りを意識して取り組んでいる	子どもの特性に合わせた環境作りに対して柔軟に対応していきたい
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		定期清掃と消毒で清潔を維持している。また活動に応じてレイアウトを柔軟に変更したり明るく安全な空間作りを心掛け、装飾や備品を工夫している	子どもの意見を取り入れた環境改善の実施を行っていきたい
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		柔軟に対応できる環境を整えている	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・日々のミーティングの他に月に数回の支援会議を行い、業務改善に努めている ・系列事業所間での綿密な連携を図り、業務改善に努めている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者の方からのご意見やご要望を真摯に受け止め、業務改善に努めている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的な職員会議で意見を収集する他、面談を通じて把握している。それらの意見を基に業務改善策を実施している。	・意見の改善反映状況を共有し透明性を確保 ・意見交換を促進する場や研修の実施
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		必要であると考えている
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・外部講師を招き「子どもの権利擁護」や「子どもアドボカシー」、「児童虐待防止」等に関する研修を実施 ・専門職を対象とした外部研修への参加を行っている	積極的に研修の機会を増やしていきたい
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○		令和7年2月中の完成を目指し、現在取り組みを進めている
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		保護者に依頼するフェイスシートを基に、独自のアセスメントシートを用いて客観的に評価を行った上で計画を策定している	求められるニーズに応じて、適宜改定を行っていきたい
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援会議を定期開催し、職員間で共通理解を図っている。また、職員がこどもの特性やニーズを共有し、意見を出し合う仕組みを構築している。	全職員が参加できる時間帯を調整し、議論への参加機会を増やす。 こどもの具体的な状況やニーズに基づき、実践的な検討プロセスを構築する
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	○		職員間で計画を共有するための会議やミーティングを定期的に実施している	計画の実施状況をモニタリングし、課題があれば早期に修正できる仕組みを構築していきたい
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたツールを用いた定期的なフォーマルアセスメントを実施している。 日々の行動観察を記録し、職員間で共有する仕組みを構築している。	インフォーマルアセスメントが主観的になり、客観性に欠ける場合があるため、改善を行いたい
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」、「地域支援・地域連携」それぞれの項目を明確に設定し、子どものニーズに合わせた支援内容を計画に反映している	支援項目が多岐にわたるため、全てを適切に網羅するのが難しく感じる
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		当日の利用人数、子どもの特性や興味等に配慮を行いながら、活動の立案を行っている	

援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節毎の行事や、子どもからの意見を取り入れる等して、活動内容の工夫を行っている	子どもアドボカシーの一環として、個々の要望や達成したい事等の聴取を行い、個別支援計画にも反映できるようにしている
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの個別の状況に合わせて、個別活動と集団活動をバランスよく組み合わせた計画を作成し、 また子どもの発達段階や興味に応じた活動内容を柔軟に設定している	個別活動の時間が過多になり、集団活動の機会が減少することがある 活動のバランスを調整し、どちらの活動も効果的に行えるよう支援時間を配分していきたい
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		日々のミーティングにて支援内容や役割分担の確認を行っている	支援中の変更があった場合、速やかに再度確認し、調整を行う
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に必ず打ち合わせを行い、各職員がその日の支援内容や気付いた点を共有することで、職員間で共通認識を形成している	振り返りが単なる事実の報告に留まらないよう、具体的な改善策や次回支援への展望を導き出す仕組みが今後の課題となる
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援の経過や成果だけでなく、子どもの些細な変化や職員の気付きも記録に反映している	記録が詳細すぎる場合、情報が埋もれるリスクがあるため、重要なポイントを簡潔にまとめるスキルの向上を図りたい
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングの実施日をあらかじめスケジュールに組み込み、計画的に進められるように調整している	子どもや保護者からの意見が抽象的で具体的な課題が見えづらい場合があるため、ヒアリング方法の工夫が必要
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○		バランス良く組み合わせたプログラムを計画している	活動の組み合わせによっては子どもが切り替えに時間を要する場合があるため、活動間の移行をスムーズにできるような改善が必要
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動プログラムの選択肢を提示し、こどもたち自身がどの活動に参加するかを選べる機会を提供。 また、アドボカシーの視点を取り入れたサポートを行っている。	今後も職員全員が「こどもの声を聴き、それを支援に活かす」という共通認識を持つ仕組みを強化していく
関係機関や保護者との連携	26	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管の他に、子どもの状況をよく理解している職員がサービス担当者会議や関係機関との会議に参加している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関との連携を意識し、必要に応じて情報を共有するよう努めている	子どもの状況に合わせて、必要な支援が受けられるよう関係機関との連携を増やす方向で検討していく
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校と多岐に渡って情報を共有し、子どもの状況に応じた支援を提供できるよう配慮している	情報共有のタイムラグを減らし、リアルタイムで情報交換できる体制を整える
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		情報共有においては、子どもの成長に役立つポイントを取り入れるよう、柔軟に対応している	関係機関との連携を強化し、支援計画を共有する際に意見交換を積極的に行うようにする
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	現時点で移行支援を行っている児童はおらず、移行に関する情報共有は行っていないが、将来のために準備を進めている	移行支援に必要な情報を体系的にまとめ、いつでも提供できるようにする
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	○		児童発達支援センターに限らず、児童福祉に精通した大学や外部講師から、定期的にスーパービジョンを受けられる体制を整えている	必要に応じて機会を増やしていきたい
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		公園での活動の際に、地域の子どもとの交流が出来る様な工夫を行う他、学生ボランティアの受け入れを行っており、交流の機会を設けている	意図的に機会を提供しているわけではないが、自然な形で生まれる交流を大切にしたい
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		幅広い地域の方のご理解を得るためには必要と感じている
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々のこどもの活動内容や様子を、送迎時や連絡帳を通じて保護者に共有し、コミュニケーションを密に取っている	保護者がより気軽に相談できる環境を整え、情報交換の機会をさらに増やしていきたい
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者同士の交流を目的とした「茶話会」を定期的に開催し、家族が情報共有や悩みを相談できる場を提供している他、必要に応じて、家庭で活用できる支援のヒントや情報を茶話会や日々のやり取りを通じて提供している	茶話会の開催頻度を増やし、家族支援の機会をより充実させ保護者の学びを深める機会を提供する
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学時や契約時に運営規程や利用者負担等について詳しく説明し、保護者が納得した上で利用を開始できるよう努めている	説明資料の内容をさらに簡潔でわかりやすくすることで、保護者の理解を深めたい
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		こどもの気持ちや意見にも耳を傾け、本人の意思を計画に反映させるよう努めている。また保護者が気軽に意見を伝えられるよう日々のコミュニケーションを大切にしている。	こどもや保護者がより具体的な意見を出しやすくするため、質問形式やガイドの改善を図る
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	○		保護者に計画内容を分かりやすく説明し、具体的な支援内容を丁寧に伝えている	保護者が具体的なイメージを持てるよう、過去の支援事例や活動内容の例を提示する

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者が子育ての悩みを相談しやすいよう、日常的に送迎時や連絡帳を通じてコミュニケーションを図っている	職員の相談対応スキルを向上させるため、定期的な研修や事例共有を行う
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		保護者同士が交流できる場として、茶話会を開催し意見交換や情報共有ができる機会を設けている。 年に1回の秋祭りでは、保護者やきょうだいも参加可能なイベントとして、家族全体で交流を深められる場を提供している。	茶話会の開催回数が少ないため、保護者の要望を考慮し、開催頻度を増やす方法を検討する
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情解決に関する規定を整備しており、規定に基づいて対応を行っている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページやＳＮＳ等を通して情報発信を行っている	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		管理規定に基づき、個人情報保護に努めている	
	44	障がいのあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々のこどもや保護者のコミュニケーション方法に合わせ、言葉遣いや伝え方を工夫し、意思の疎通が円滑に行えるよう配慮している	さらに多様なコミュニケーションツールを取り入れ、特に保護者が活用しやすい方法を積極的に導入する
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・行事等への招待は行っていないが、近隣住民とは良好な関係を持つことが出来ている ・ボランティアの受け入れを行っており、開かれた事業運営に努めている
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事故防止や緊急時対応、防犯、感染症対応に関する各種マニュアルを定期的に見直し、最新の状況に即した内容を反映している	保護者への周知をより徹底するため,分かりやすく伝える方法を検討する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）は事業所の特性に合わせて策定し、定期的に見直しを行い、最新のリスクに対応できる内容にしている	職員が自信を持って行動できるよう、災害対応に関する外部研修や専門家による指導を導入する
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		職員間でこどもの健康状態に関する情報を共有し、必要な対応が速やかにできる体制を整備している	保護者が安心して状況を伝えられるよう、相談しやすい環境や仕組み作りを進める
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者を通して情報把握に努めており、必要に応じて医師からの指示を仰ぐことにしている	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		職員向けの安全管理研修を定期的に実施し、事故やトラブル時の適切な対応力を強化している	日常的な安全点検を職員全員で行い、潜在的なリスクの早期発見と対応を目指す
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	○		安全計画の要点を簡潔にまとめた資料を作成し、配布している	安全計画に基づく取組内容を定期的に見直し、その都度保護者に情報を共有する場を設ける
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		定期的にヒヤリハット事例を職員間で共有し、事例ごとに再発防止策を議論する機会を設けている	再発防止策が実際に効果を上げているか、定期的に評価し、必要に応じて修正する仕組みを整える
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部講師を招いた専門的な研修を行い、職員のスキルアップを図っている	研修後に職員の理解度や研修の有効性を確認し、次回以降の内容改善に反映する
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束を行わない方針を徹底し、必要な場合には代替手段（環境調整、行動支援など）を検討する	身体拘束が全く行われないよう、事前の予防措置やリスク管理を徹底し、定期的な見直しを行う